

研究ノート

志摩半島前島半島部における海産魚類の地方名目録

日比野 友亮

〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学大学院農学研究院水産増殖学研究室

(2017年8月30日受付 ; 2018年3月18日受理)

キーワード: 地方名, 方言, 魚類, 三重

Yusuke Hibino*. 2018. The annotated checklist of the local marine fish name in the along the coast of Sakishima area, Shima Peninsula, southern part of Mie Prefecture. Mie Prefectural Museum Research Bulletin, 4: 9-29.

要旨

2010年4月から2017年11月まで志摩半島の御座から和具にかけての志摩町前島半島部で魚名の聞き取り調査を行い、253種について261個の地方名を収集した。これらの地方名の中には紀伊半島で共通のものが多くみられた。さらに、江戸時代から使用されている古語も複数確認された。一方で水産重要種では「いなだ」、「たい」といった一般的な通俗名や、あるいは「ぼら」、「すずき」などの標準和名が用いられている場合が多かった。さらに、標準和名、一般的な通俗名、あるいはそれに類似した名称が、通常それらの指す対象とは異なる種に対して使用される事例がいくつか確認された。

**Corresponding author: Laboratory of Fisheries Biology, Faculty of Agriculture, Kyushu University, 6-10-1 Hakozaki, Higashi-ku, Fukuoka 812-8581, Japan (e-mail: yusukeelology@gmail.com)*

はじめに

日本の国土は南北に細長い弧状を呈し、幾多の島々から構成されるいわゆる島国である。日本の海岸線は約35000kmときわめて長く、また黒潮と対馬海流、親潮と千島海流の影響から複雑多様な海洋環境が実現し、現在約4200種の海産魚類が知られている(中坊, 2013)。我が国では教育に資する目的で標準和名という考え方が考案され、特に魚類では当初田中茂穂らによって1913年に当時知られていた全種に対し標準的な和名を付与するという画期的な取り組みが行われた。これらの和名の多くはある種の地方名か、またはそれを標準化(訛りの修正, 修飾語の付加等)して決定・命名された(田中, 1928)。他方、そこから約100年を経た現在においても、日本各地に数多の地方名が存在しており、場合によっては地方名と標準和名の不一致によっ

て、混乱を生ずる可能性のあるものも含まれている。

本研究で対象とした三重県志摩市の志摩町前島半島部ではこれまでにごく断片的な地方名の報告(孫福, 1983; 東海農政局津統計・情報センター, 2005)や文献から収集した魚類地方名を含む方言語彙のもつ意味を話者に尋ねるという方式で採録されたもの(鍋島, 2008)はあるものの、網羅的かつ種同定精度の高い報告はない。このような背景から水産学、魚類学、民俗学やその他のフィールドワークに資することを目的として、志摩町前島半島部において網羅的に地方名を収集し、ここに報告する。

方法

2010年4月から2017年11月にかけて、三重県志摩市志摩町の各漁港(御座, 越賀, 和具)および鮮魚店

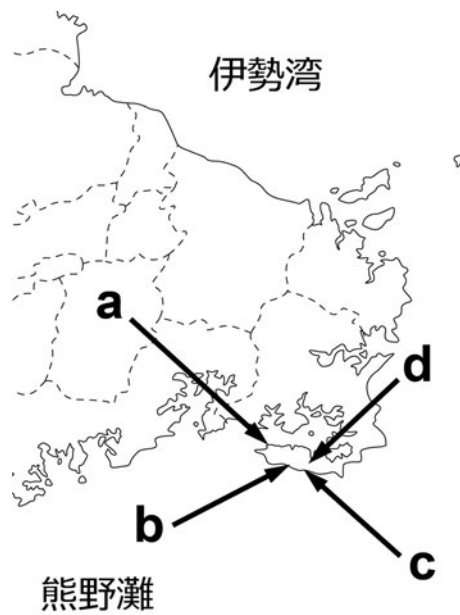


図1. 調査地の地図.

a 御座漁港；b 越賀漁港；c 和具漁港；
d やだや商店.

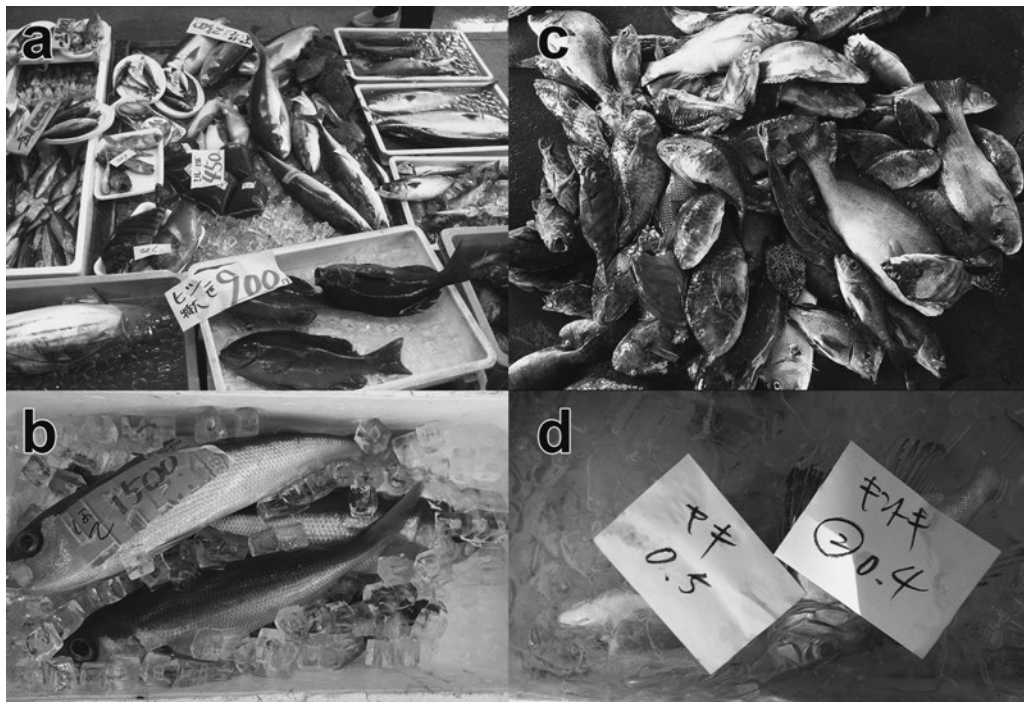


図2. a, b やだや商店での販売状況(a)と、商品札(b)；御座漁港でのイセエビ刺網漁での漁獲物(c)；
和具漁港でのセリ札(d).

(やだや商店)で魚類採集の傍ら漁業者、仲買人および地域住民から聞き取りとセリ札の書き取りを行った(図1, 2). 聞き取りは基本的に鮮魚の実物を指し示してその呼称を尋ねる方法で行なった. これは、写真を話者に見せて採録する、あるいは聞き取った名称を写真から絵合わせして種同定するという、いずれの手法と比較してもより高い種同定の正確性を確保できる利

点がある. ただし、一部では聞き取った情報を補完するために別途御座漁港および和具漁港で生鮮写真の掲載された魚類図鑑(小西, 2011)を用いての情報収集を行った. 本研究では調査を通じて得られた全ての魚類名称を地方名と定義した. すなわち、標準和名と一致するものであっても地方共通名として使用されているもの(例えばブリやボラ)に関しても全て地方名と

して扱った。訛りによると思われる語感変化および省略形と考えられるもの（例えば「はたじろます」と「はたじろ」）は全て別の地方名とみなして収集した。魚類の同定および標準和名は中坊（2013）にしたがった。通俗名は全国で広く通用されているが標準和名とは異なる名称とし、基本的に日本魚類学会（1981）「日本産魚名大辞典」で採録地が“一般”とされているものと、東日本から西日本の広範囲で採録されているものとした。志摩町の海産魚類については三重大学附属水産実験所（FRLM）の所蔵標本を参照した。他地域の地方名については日本魚類学会（1981）を参照し、三重県内での地方名については孫福（1983）「伊勢湾魚類調査（方言ノ部）」（採録方法は不明）、東海農政局津統計・情報センター（2005）「三重の魚たち」（魚の写真を話者に見せて採録）および鍋島（2008）「和具の方言」（主として文献から収集した魚類地方名を含む方言語彙のもつ意味を話者に尋ねるという方式で採録し、その後魚類図鑑等で種同定を行なったものと思われる）を、尾鷲市での地方名については岩田一昭氏による「1日1魚」（<http://www.city.owase.lg.jp/public/ichigyo/index.htm>）を参照し、さらに志摩市から熊

野市に至る範囲における筆者の知見を含めた。標準和名と地方名とを区別するために、本文およびチェックリストでは標準和名をカナ表記とし、地方名はかな表記とした。

チェックリストについて

チェックリストは中坊（2013）に準拠し、科名および種名（和名および学名；ただし、学名については一部最新の知見にしたがった部分がある）、地方名の順に記載し、地方名を採集した地区名、日本魚類学会（1981）にその地方名が採録されている場合には該当ページ数と、記録された地域（三重県；それ以外）を付記した。南伊勢町以西の紀伊半島でも使用される地方名には*を付記した。さらに必要に応じて備考で補足を行った。東海農政局津統計・情報センター（2005）と鍋島（2008）で採録された魚類地方名については可能な限りチェックリスト内で言及することとし、特に後者については種同定についての疑義や、本研究では和具地区から採録されなかった地方名についてその都度言及した。



図3. 地方名によって混乱を生じる可能性のある種。a ネコザメ；b ナヌカザメ（木村清志氏撮影）。

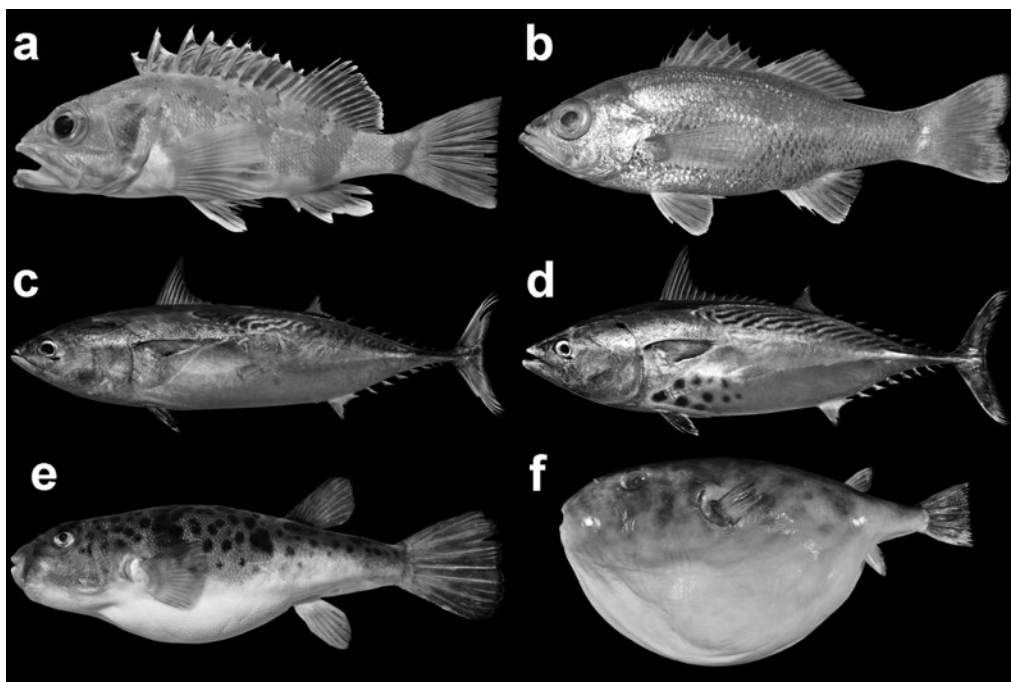


図4． 地方名によって混乱を生じる可能性のある種（続き）． a ユメカサゴ；b アカムツ（木村清志氏撮影）；c マルソウダ（武内 俊氏撮影）；d スマ；e ヒガンフグ；f ヨリトフグ（木村清志氏撮影）．

表1． 混乱を生じる可能性のある志摩町前島半島部の地方名

志摩町での地方名	標準和名	通俗名
ねこざめ	ナメカザメ	-
さざえわり	ネコザメ	-
うなぎ	ウツボ	-
うなぎ	ニホンウナギ	うなぎ
のどぐろ	ユメカサゴ	-
あかむつ	アカムツ	のどぐろ
れんこだい、さくらだい、ちだい	チダイ	はなだい
れんこだい	キダイ	れんこだい
てす	イラ	-
てす	テンス	-
ひだりまき	ミギマキ	-
そま	ヒラソウダ	-
やいと	スマ	-
よりと	ヒガンフグ	-
-	ヨリトフグ	-

結果と考察

得られた地方名および対応する標準和名をチェックリストに示した．今回の調査では253種について合計261個の地方名が収集された．本研究とほぼ同時期の

1990年以降に和具の方言研究を行なった鍋島（2008）では約200種について約300個の魚類地方名を採録している．この採録数の差異の理由として、本研究が正確な種同定を担保するために基本的に魚の実物が話者あ

るいは記入者と著者の目前に存在する状況で行なわれたのに対し、鍋島（2008）では主として文献から収集した魚類地方名を含む方言語彙のもつ意味を話者に尋ねるという方式で行なわれたという相違や、本研究における採録対象者が当時50代から70代（昭和初期から中期生まれ）の地域住民が中心であったのに対し、鍋島（2008）では明治時代末期生まれの女性が主な聞き取り対象として扱われたことが挙げられる。鍋島（2008）に採録された地方名の指す魚種は本研究と概ね一致しているが、非魚類研究者が実物に基づかず聞き取りを行なっているために明らかな誤同定が少なからず含まれるほか（一部についてはチェックリスト内の備考に示した）、標準和名と地方名の表記がいずれも基本的に平仮名で、両者の区別が困難であるものも含まれることから、鍋島（2008）での採録情報は必ずしも正確ではないことに注意が必要である。なおここで改めて論じるまでもないことではあるが、本研究や鍋島（2008）で収集された地方名は調査地域で使用されている全地方名を網羅しているわけではないし、全体に対する収集できた個数の割合もまた不明である。

本研究で収集された261個の地方名には、標準和名ではないが全国共通で使用される通俗名（「たい」、「とんぼ」など）が39個、標準和名と一致するもの（「ぶり」、「すずき」など）が50個含まれていた。同一地区で複数の種に対して同じ名称を用いる混称は合計49個で、全体の約19%であった。紀伊半島に共通して出現する地方名は160個（ただし通俗名や標準和名と一致するものも含む）であった。今回調査を行った志摩町の御座、越賀、和具地区は志摩半島のいわゆる前島半島に位置し、豊かな水産資源に恵まれる水産業主体の地域である。一方で、当該地域は北方、西方を山地に阻まれ、起伏の激しいリアス式海岸であることや、その他様々な要因によって昭和初期まで陸の孤島であったことに起因して、固有の民俗風習を現在でも色濃く残している（志摩町史編纂委員会，2004；山川，2016）。このような背景から、多様な地方名が現在でも消滅することなく残存しているものと考えられる。志摩半島は陸路よりも海路が発達していたことから、前島半島の各地区（御座、和具）は近隣の地区よりもむしろ御座地区では対岸の浜島地区、和具地区では紀伊勝浦との文化的交流が強い時代がごく最近まで続いていた。前島半島で共通して通用される地方名は多いが、和具

地区の「びく」（カワハギ）は御座地区では通用しない、「めっこ」は御座地区ではムラソイを指すが、和具地区ではアヤマカサゴのことを指すなど、集落間の地方名差異もいくつか確認できる。このような地区固有の地方名が長年維持されてきたことの理由として、近年まで漁港ごとで独自にセリを行っていたことが挙げられる。ただし、現在では御座漁港での単独のセリが廃止されていることや、第二伊勢道路開通等の物流事情の改善に伴い、地区固有の地方名、特に水産重要種を指すものについては近い将来消滅する可能性が高い。

調査で得られた地方名のうち、混称の出現する魚の多くは未利用魚（エイ類、エソ科、ネブツダイ科、イスズミ科など）か、または価格、食味に種間の大差がなく、商品価値が低いもの（トビウオ科、アジ科ギンガメアジ属、ヒメジ科ウミヒゴイ属など）であり、これは他地域の地方名の傾向と概ね一致する（日本魚類学会，1981；日比野，2015）。商品価値の高い魚にも混称は存在するが（ハタ科マハタ属、サバ科サバ属など）、これらの分類群ではグループ全体を指す混称と共に種ごとに固有の地方名も確認された。すなわち、ゴマサバとマサバには両者を纏めた地方名である「さば」と、「ごまさば」、「まさば（あるいは「ひらさば）」という別個の地方名が確認された。

塩谷（2016）は文献調査に基づいて青森県の魚類地方名〔塩谷（2016）では方言名〕を整理し、(1)標準和名と全く異なる方言名；(2)標準和名と部分的に共通部分を含む方言名；(3)標準和名に方言特有の音変化が生じたと思われる方言名；(4)標準和名を短縮した形の方言名；(5)標準和名と同一形であるが方言リストに加えられているもの；(6)標準和名のみで魚種一覧に含まれており方言名が一切提示されていないものの6パターンに分類できるとした。本研究では文献調査に特有の(6)を除いた全てのパターンが確認された。当該地域ではブリやマダイ、スズキやボラなど、一般に商品価値の高く流通性の高い水産重要種について、一般的な通俗名や標準和名が通用されていることが確認されている。これらの地方名は(5)に該当するもので、この傾向は塩谷（2016）の結果とも概ね一致する。なお、これらの呼称の中には古くから商品価値の高さが認知され独自の地方名が生じる素地が元々なかったもの（マダイやカツオなど）と、志摩町前島半

島部では利用されていないが他地域で商品価値の高いもの（ハモなど）、従来あった地方名が現在では一般的な通俗名や標準和名によって置き換わったもの（キハダやヒラメなど）ものがあると推測される。一方で、志摩町前島半島部では塩谷（2016）の6パターンのいずれにも該当しないもの、すなわち、標準和名または一般的な通俗名と同音あるいは類似しながら、それらの名称が一般的に意図する対象種とは異なる種のことを指し示す地方名も複数確認された（図3、4；表1）。「よりと」は当該地域ではヒガンフグのことを指すが、標準和名ヨリトフグという全く別の魚（志摩町前島半島部を含めた志摩町周辺では漁獲対象ではないが、三重県内では尾鷲市で底曳網による多数の水揚げがある）が存在する。ヒガンフグは皮膚、肝臓、生殖腺、消化管が有毒であり、筋肉のみが食用となるが、ヨリトフグでは筋肉、皮、精巣が無毒とされている（厚生省生活衛生局乳肉衛生課，1984）。したがって、「よりと」（＝ヒガンフグ）をヨリトフグと誤認した場合、テトロドトキシン中毒を発症する危険がある。他にも、「ねこざめ」はナヌカザメ（ネコザメ科ネコザメは「さざえわり」と呼称されている）、「のどぐろ」はユメカサゴ（ホタルジャコ科アカムツ、いわゆる「のどぐろ」は当該地域では「あかむつ」と呼称されている）など、一般とは異なる種を指し示すいくつかの地方名に注意を要することが明らかとなった。このような地方名の入れ替わり現象は魚類以外でも知られている（真田，1981）。標準和名がある地域の地方名を基に形成されたものであるという性質上、このような例は他地域の魚類でも頻繁に生じている可能性が高い。さらに、「たつのおとしご」や「きんめだい」、「あいなめ」のように、標準和名が指し示す種の範囲よりも、地方名のそれがより広範に拡張し、混称化している名称も確認された。

謝辞

やまみ大敷をはじめとする三重県志摩市志摩町の各漁港（御座，越賀，和具）の漁業者，仲買人のみなさま，西岡幸彦・光代夫妻，小川清宏氏をはじめとする地域住民のみなさま，ならびにやだや商店とその顧客のみなさまには地方名の聞き取りにあたり多数の知見を提供いただいた。三重県水産研究所の岡田 誠氏には南伊勢町の地方名についてご教示いただいた。三重

県尾鷲市の漁業者，鮮魚店のみなさまには尾鷲市の地方名についてご教示いただいた。三重大学大学院附属水産実験所の木村清志氏には所蔵標本の参照に便宜を図っていただいたうえ，写真を提供していただいた。三重大学大学院生物資源学研究科の山本慧史氏には文献の入手に尽力いただいた。三重県総合博物館の門口実代氏と匿名の査読者2名には原稿をまとめるにあたり数々のご助言を賜った。この場をお借りして，深く御礼申し上げる。

引用文献

- 博 望子・原田信男訳. 1988. 料理山海郷. 教育社，東京. 274pp.
- 日比野友亮. 2015. 愛知県海部津島地域の川魚食文化，特にふな味噌に着目して. 魚類自然史研究会会報「ボテジャコ」，19: 23-32.
- 岩田一昭. 2009. 1日1魚. <http://www.city.owase.lg.jp/public/ichigyo/index.htm>（参照日：2016年5月1日）
- 川口祐二. 1995. サメを食った話，光出版，松阪市. 174pp.
- 小西英人. 2011. 釣魚1400種図鑑海水魚・淡水魚完全見分けガイド. エンターブレイン，東京. 541pp.
- 厚生省生活衛生局乳肉衛生課（編）. 1984. 日本近海産フグ類の鑑別と毒性. 中央法規出版，東京. 85pp.
- 孫福 正. 1983. 伊勢湾魚類調査（方言ノ部）. 三重生物，33: 23-28.
- 中坊徹次（編）. 2013. 日本産魚類検索全種の同定第三版. 東海大学出版会，秦野. 2530pp.
- 鍋島 泰. 2008. 和具の地方名. 磯野印刷，南伊勢町. 2268pp.
- 日本魚類学会（編）. 1981. 日本産魚名大辞典. 三省堂，東京. 834pp.
- 野瀬泰申. 2012. 第117回三重県ご当地グルメ（その4）桑名でカレーを食わないと. 日経電子版. <http://www.nikkei.co.jp/category/offtime/tabeb/article.aspx?id=MMGEZq000011122012>（参照日：2016年5月1日）
- 真田信治. 1981. 現代方言における「こおろぎ」と「きりぎりす」. 金沢大学語学・文学研究，11: 31-36.
- 志摩町史編纂委員会（編）. 2004. 志摩町史改訂版. 志摩町教育委員会，志摩町. 1164pp.
- 塩谷 亨. 2016. 青森県における魚類等の方言名について. 北海道言語文化研究，14: 93-118.

田中茂穂. 1928. 同種か別種かを鑑別する標準. 動物学雑誌, 40: 433-446.

東海農政局津統計・情報センター(編). 2005. 三重のさかなたち. 伊藤印刷, 津市. 96pp.

宇井縫蔵. 1929. 紀州魚譜. 紀元社, 東京. 45pp.

山川芳洋. 2016. 鳥羽志摩の國・民俗歳時記. 伊勢文化舎, 伊勢市. 168pp.

Checklist

ネコザメ科 *Heterodontidae*

ネコザメ *Heterodontus japonicus*

さざえわり*〔御座, 越賀, 和具〕: 255 (志摩; 千葉~福岡)

備考: 鍋島 (2008) では「さざいわり」が採録されている.

ネズミザメ科 *Lamnidae*

アオザメ *Isurus oxyrinchus*

いらぎ*〔和具〕: 3 (熊野地方; 大阪, 福岡, 熊本)

備考: 鍋島 (2008) ではアオザメとともにヨシキリザメの地方名として採録されている.

トラザメ科 *Scyliorhinidae*

ナヌカザメ *Cephaloscyllium umbratile*

ねこ〔和具〕, ねこざめ〔越賀, 和具〕

備考: 越賀, 和具地区では専らさめなますで賞味される. なお, 標準和名ネコザメは通常食用とされずに廃棄されるが, 文献上はしばしば混同され, 「さめなますで賞味される」などと書かれている (川口, 1995; 野瀬, 2012).

ドチザメ科 *Triakidae*

ドチザメ *Triakis scyllium*

さめ〔御座, 越賀, 和具〕

備考: 鍋島 (2008) では「どえ」「どへざめ」が採録されている.

ホシザメ *Mustelus manazo*

さめ*〔御座, 和具〕: 312 (鳥羽; 富山)

備考: 鍋島 (2008) では「ほしざめ」が採録されている.

シュモクザメ科 *Sphyrnidae*

シロシュモクザメ *Sphyrna zygaena*

しゅもくざめ*〔和具〕: 178 (福島, 東京, 神奈川)

備考: 東海農政局津統計・情報センター (2005) では和具地区から「かせ」が, 鍋島 (2008) では「しゅ

もく」が採録されている.

ウチワザメ科 *Platyrrhinidae*

オニノウチワ *Platyrrhina hyugaensis*

いゑい〔和具〕

シビレエイ科 *Torpedinidae*

シビレエイ *Narke japonica*

いゑい〔和具〕, でんき〔和具〕, ぶり〔御座〕

備考: 鍋島 (2008) では「でんき」のほか「しびれえ」, 「しびれええ」, 「でんきうお」が採録されている.

ガンギエイ科 *Rajidae*

ツマリカスベ *Okamejei schmidtii*

いゑい〔和具〕

アカエイ科 *Dasyatidae*

ヒラタエイ *Urolophus aurantiacus*

いゑい〔御座, 和具〕

アカエイ *Dasyatis akajei*

あかえい〔御座〕: 7 (関東~下関), いゑい〔御座, 和具〕

備考: 鍋島 (2008) では「あかええ」のほか「あかえ」, 「のこぎり」が採録されている.

ホシエイ *Dasyatis matsubarae*

いゑい〔御座, 和具〕

イズヒメエイ *Dasyatis izuensis*

いゑい〔御座〕

ツバクロエイ科 *Gymnuridae*

ツバクロエイ *Gymnura japonica*

いゑい〔和具〕

トビエイ科 *Myliobatidae*

トビエイ *Myliobatis tobijei*

いゑい〔御座, 和具〕

備考: 鍋島 (2008) で「とびえ」がウシバナトビエイの地方名として採録されているが, 本種は志摩地域には分布しない南方種であり, トビエイの誤認と考えられる.

ウナギ科 *Anguillidae*

ニホンウナギ *Anguilla japonica*

うなぎ*〔越賀, 和具〕: 52 (一般), かわうなぎ〔和具〕, しらすうなぎ〔越賀, 和具〕: 52 (有明海)

備考: 鍋島 (2008) では「かわうなぎ」のほか「いとうなぎ」, 「かみなげ」, 「ぶり」が採録されている.

ウツボ科 *Muraenidae*

トラウツボ *Enchelycore pardalis*

ひめうなぎ [越賀]

ユリウツボ *Gymnothorax prionodon*

うなぎ [御座, 和具]

備考: 鍋島 (2008) では「たぬき」が採録されている。

ウツボ *Gymnothorax kidako*

うつぽ* [和具] : 51 (鳥羽; 新潟, 神奈川, 紀州各地, 関西, 高知) ; うなぎ [御座, 越賀, 和具]

コケウツボ *Enchelycore lichenosa*

うなぎ [御座, 和具]

備考: 鍋島 (2008) では「たちうなぎ」が採録されている。

ウミヘビ科 *Ophichthidae*

ダイナンウミヘビ *Ophisurus macrorhynchus*

へび [御座, 越賀]

ホタテウミヘビ *Ophichthus altipennis*

うみへび [越賀, 和具] : 314 (山口), へび [御座]

アナゴ科

ハナアナゴ *Ariosoma anago*

あなご* [御座, 和具]

オオシロアナゴ *Ariosoma majus*

あなご* [御座, 和具]

ゴテンアナゴ *Ariosoma meeki*

あなご* [御座]

ダイナンアナゴ *Conger erebennus*

あなご [和具], すべり [和具]

備考: 和具地区では延縄の餌として利用される。

マアナゴ *Conger myriaster*

あなご* [御座, 越賀, 和具] : 320 (鳥羽; 南日本)

ハモ科 *Muraenesocidae*

ハモ *Muraenesox cinereus*

はも* [御座, 和具] : 274 (一般)

ニシン科 *Clupeidae*

ウルメイワシ *Etrumeus teres*

うるめ* [御座, 越賀, 和具] : 57 (鳥羽; 一般),
うるめいわし* [和具] : 57 (一般), ぼおうるめ [御座]

備考: 志摩町ではイワシ類の中でもっとも高値で取引され, 刺し身やあげじお (塩を振って馴染ませたものを二杯酢で洗って食べるもの) で賞味される。鍋島 (2008) では上記のほかに「まいわし」が採録

されている。ここには話者の会話も同時に採録されており, 会話内容に含まれる形態的特徴からウルメイワシのことを指していると判断された。

キビナゴ *Spratelloides gracilis*

きみ [御座, 越賀, 和具], きみいわし [御座] : 112 (神奈川, 静岡)

備考: 東海農政局津統計・情報センター (2005) では和具地区からも「きみいわし」が, 鍋島 (2008) では「きみいわし」のほか「きびなご」, 「きみなご」が採録されている。

マイワシ *Sardinops melanostictus*

いわし* [御座] : 321 (一般), ひらご* [御座, 和具] : 321 (紀州~瀬戸内海, 高知), ひらごいわし [御座] : 321 (高知, 鹿児島)

備考: 志摩町では評価が低い。鍋島 (2008) では「いわし」に対応する種としてウルメイワシを挙げているが, その直後に採録されている「いわしかい」(カツオ漁のために餌を買う人の意) の指す「いわし」はカタクチイワシである。

コノシロ *Konosirus punctatus*

このしろ* [御座, 和具] : 145 (鳥羽; 一般)

備考: 鍋島 (2008) ではほかに「どろくい」が採録されている。

カタクチイワシ科 *Engraulidae*

カタクチイワシ *Engraulis japonica*

えたれ* [御座, 和具] : 86 (尾鷲; 和歌山, 有明海), えたれいわし* [御座, 和具] : 86 (熊野; 高知), せぐろいわし* [和具] : 86 (秋田以南)

備考: 鍋島 (2008) では「えたれ」, 「えたれいわし」のほか「いりこ」, 「えいわし」, 「ひしこ」が採録されている。

ゴンズイ科 *Plotosidae*

ゴンズイ *Plotosus japonicus*

ござ [御座] : 152 (鳥羽), ごーずい [御座]

備考: 御座地区では味噌汁の具として重宝されるが, 他の地区では通常食用とされない。東海農政局津統計・情報センター (2005) では和具地区からも「ござ」が, 鍋島 (2008) では「ござ」のほか「ございお」が採録されている。

エソ科 *Synodontidae*

トカゲエソ *Saurida elongata*

いえそ [御座]

マエソ *Saurida macrolepis*

いえそ [御座]

オキエソ *Trachinocephalus myops*

いえそ [御座]

アカエソ *Synodus ulae*

いえそ [御座, 和具]

備考: 鍋島 (2008) ではアカエソ, スナエソ, ホシエソ (おそらくマエソのこと) を指す地方名として「ふえぐそ」が採録されている。

ホシノエソ *Synodus hoshinonis*

いえそ [和具]

アカマンボウ科 **Lampridae**

アカマンボウ *Lampris guttatus*

あかまんぼう [和具] : 14 (東京, 神奈川)

備考: 鍋島 (2008) では「まんだい」が採録されている。

アンコウ科 **Lophiidae**

アンコウ *Lophiomus setigerus*

あんこう* [和具] : 27 (東京~高知)

備考: 鍋島 (2008) では「あんこ」が採録されている。

キアンコウ *Lophius litulon*

あんこう* [御座, 和具]

キンメダイ科 **Berycidae**

キンメダイ *Beryx splendens*

きんめ* [和具] : 119 (千葉~神奈川), きんめだい [和具] : 119 (秋田, 新潟, 東京~神奈川)

備考: 鍋島 (2008) では「きんた」が本種の地方名として採録されているが, 併記されている話者の会話内容に含まれる特徴からキントキダイの誤認と判断される。

ナンヨウキンメ *Beryx decadactylus*

きんめだい [和具]

イトウダイ科 **Holocentridae**

イトウダイ *Sargocentron spinosissimum*

えびす [和具] ; きんぎょ [和具]

備考: 志摩から「えびすうお」という呼称が採録されている (日本魚類学会, 1981)。鍋島 (2008) では「あかえびす」が採録されている。

マツカサウオ科 **Monocentridae**

マツカサウオ *Monocentris japonica*

まつかさ [御座, 和具] : 328 (神奈川, 佐賀)

備考: 鍋島 (2008) では「えびす」, 「えびすいお」, 「えびすうお」がマツカサウオの地方名として採録されているが, 真偽は不明である。

マトウダイ科 **Zeidae**

マトウダイ *Zeus faber*

まと* [和具] : 330 (東京~高知), まとだい [御座, 和具] : 330 (富山, 愛知)

備考: 尾鷲市では「まとはげ」とも呼称される。

ヤガラ科 **Fistulariidae**

アカヤガラ *Fistularia petimba*

あかやがら* [御座] : 16 (一般)

備考: 「あかやがら」は鍋島 (2008) でも採録されている。

ヨウジウオ科 **Syngnathidae**

タツノオトシゴ *Hippocampus coronatus*

たつのおとしご* [御座] : 205 (二木島; 一般)

タカクラタツ *Hippocampus trimaculatus*

たつのおとしご [御座]

ハナタツ *Hippocampus sindonis*

たつのおとしご [御座]

ボラ科 **Mugilidae**

ボラ *Mugil cephalus cephalus*

いな* [御座] : 317 (伊勢鳥羽; 東北~高知), ぼら* [御座, 越賀, 和具] : 318 (伊勢; 一般)

備考: 本種は出世魚であることから, 追加調査の余地がある。「いな」は鍋島 (2008) でも採録されている。

トウゴロウイワシ科 **Atherinidae**

ギンイソイワシ *Hypoatherina tsurugae*

どべ [御座], どぼ [御座]

トウゴロウイワシ *Hypoatherina valenciennei*

どべ [御座], どぼ* [御座] : 225 (伊勢, 尾鷲)

備考: 現在の尾鷲漁港周辺では通常「とうごろ」, 「とんごろ」と呼称されている。トウゴロウイワシ類の地方名については追加調査の余地がある。「どぼ」は鍋島 (2008) でも採録されている。東海農政局津統計・情報センター (2005) は和具地区の和具浦 (英虞湾側) から本種の地方名として「とんごろ」を採録しているが, 和具浦に通常出現するのはギンイソイワシである。

サヨリ科 **Hemiramphidae**

サヨリ *Hyporhamphus sajori*

さより〔御座，和具〕：161（一般・秋田～有明海）
備考：鍋島（2008）では「いそざいら」が採録されている。

トビウオ科 Exocoetidae

アヤトビウオ *Cypselurus poecilopterus*

とび〔御座，和具〕

トビウオ *Cypselurus agoo*

とび〔御座，和具〕：232（一般），とびうお*〔和具〕：232（一般）

備考：鍋島（2008）では「とびいお」が採録されているが，これがトビウオ科全般を指すものか，あるいは一部の種に限って使用されているものかは判断できなかった。

ハマトビウオ *Cypselurus pinnatibarbatus japonicus*

とび〔和具〕

アリアケトビウオ *Cypselurus starksi*

とび〔御座〕

ホソトビウオ *Cypselurus hiraii*

とび〔御座，和具〕

ツクシトビウオ *Cypselurus doederleini*

とび〔御座，和具〕

ダツ科 Belonidae

ハマダツ *Ablennes hians*

だつ*〔御座〕：273（鳥羽；広島）

ダツ *Strongylura anastomella*

だつ〔御座〕：204（一般）

備考：「だつ」は鍋島（2008）でも採録されているが，ダツのみを指すものか，あるいはダツ科全般を指すものかは判断できなかった。

オキザヨリ *Tylosurus crocodilus crocodilus*

だつ〔御座〕

サンマ科 Scomberesocidae

サンマ *Cololabis saira*

さいら*〔御座〕：163（志摩；和歌山～鹿児島），

さんま*〔御座，越賀，和具〕：164（一般）

備考：「さいら」という地方名は現状では一部の古老を除いてほとんど使われていない。さんま寿司の材料として重要。「さいら」は鍋島（2008）でも採録されている。

メバル科 Sebastidae

ユメカサゴ *Helicolenus hilgendorffii*

のどぐろ〔和具〕：419（神奈川）

アヤメカサゴ *Sebastiscus albofasciatus*

めっこ〔和具〕

備考：和歌山県太地町から「めっこう」という呼称が採録されている（日本魚類学会，1981）。

カサゴ *Sebastiscus marmoratus*

がし〔御座，和具〕

備考：志摩市浜島地区から「がら」という呼称が採録されている（日本魚類学会，1981）。東海農政局津統計・情報センター（2005）では和具地区から「あかごろ」，「かすぎ」，「きゅうざ」が採録されている。

ウツカリカサゴ *Sebastiscus tertius*

びっくりがし〔和具〕，めんつ*〔和具〕

ホウズキ *Hozukius emblemarius*

あこうだい*〔和具〕

備考：鍋島（2008）では赤い深海性のカサゴ類の地方名として「めぬけ」が採録されている。

クロソイ *Sebastes schlegelii*

くろがし〔和具〕，くろもず〔和具〕

備考：東海農政局津統計・情報センター（2005）では和具地区から「くろもつ」が採録されている。

トゴットメバル *Sebastes joyneri*

おきめばる〔和具〕，おきわが〔和具〕

アカメバル *Sebastes inermis*

めばる〔御座，和具〕：408（一般），わが*〔和具〕：408（鳥羽）

備考：メバル類については日本魚類学会（1981）は現在の分類体系と異なるため，暫定的にメバル *Sebastes inermis* として列記されている地方名の採録地を付記した。

クロメバル *Sebastes ventricosus*

めばる〔御座，和具〕，わが*〔和具〕

シロメバル *Sebastes cheni*

めばる〔御座，和具〕

ウケグチメバル *Sebastes scythropus*

のどぐろのなかま〔和具〕

備考：鍋島（2008）では本種に対応する地方名として「あこおだい」が採録されているが，少なくとも和具の魚市場では「あこうだい」はホオズキのみを指す。

カタボシアカメバル *Sebastes kiyomatsui*

のどぐろのなかま〔和具〕

ムラソイ *Sebastes pachycephalus*

くろもず [和具], めっこ [御座], もうお [和具]
備考: 鍋島 (2008) では「くろもず」がハクテンハタの地方名として採録されているが, 本種は南方種で志摩地域には分布しない. 鍋島 (2008) では「もいお」がクジメの地方名として採録されているが, 併記されている話者の会話内容に含まれる特徴 (カサゴに似ていて, 点々のような模様があり, 海藻の中にいて突きやすい) からムラソイのことを指すと考えられる. 東海農政局津統計・情報センター (2005) ではメバル類の地方名として御座地区から「めっこ」を採録しているが, 話者の写真からの種同定精度に疑問が残る.

フサカサゴ科 *Scorpaenidae*

ミノカサゴ *Pterois lunulata*

みのかさご* [御座, 和具] : 343 (神奈川)
備考: 鍋島 (2008) では「せおこぜ」が採録されている.

オニカサゴ *Scorpaenopsis cirrosa*

おこぜ* [御座] : 74 (山口), おにおこぜ [和具], おばさん [御座]

コクチフサカサゴ *Scorpaena miostoma*

おこぜ* [御座, 和具], しょーやんばば [和具]
備考: 鍋島 (2008) では「しょーやんばば」がイブカサゴの地方名として採録されているが, イブカサゴの水揚げは志摩地域では滅多にない.

フサカサゴ *Scorpaena onaria*

おこぜ* [御座, 和具], しょーやんばば [和具]

ハチ科 *Apistidae*

ハチ *Apistus carinatus*

おこぜ* [御座] : 268 (高知)

ハオコゼ科 *Tetrarogidae*

ハオコゼ *Hypodytes rubripinnis*

おこぜ* [御座] : 261 (一般)

オニオコゼ科 *Synanceiidae*

オニオコゼ *Inimicus japonicus*

おこぜ* [和具] : 74 (尾鷲; 一般)

ホウボウ科 *Triglidae*

ホウボウ *Chelidonichthys spinosus*

ほうぼう* [御座, 和具] : 309 (一般)

カナド *Lepidotrigla guentheri*

かながしら* [御座] : 89 (二木島; 和歌山, 富山)

カナガシラ *Lepidotrigla microptera*

かながしら [御座] : 89 (一般), ほうぼう [御座]
備考: 「かながしら」は鍋島 (2008) でも採録されているが, ホウボウ科全般を指すものか, あるいはカナガシラのみを指すものかは判断できなかった.

コチ科 *Platycephalidae*

マゴチ *Platycephalus* sp.

こち* [御座; 和具] : 143 (一般)
備考: 鍋島 (2008) では「ほんごち」が採録されている.

イネゴチ *Cociella crocodila*

こち [和具] : 43 (鳥羽; 新潟, 富山, 長崎)

ワニゴチ *Inegocia ochiaii*

おばごち [和具], こち [御座, 和具]
備考: 鍋島 (2008) では「おにごち」が採録されている.

スズキ科 *Lateolabracidae*

ヒラスズキ *Lateolabrax latus*

します* [御座, 越賀, 和具]
備考: 鍋島 (2008) では「します」の指す魚種にヒラスズキのほかにアラを挙げているが, 真偽は不明である.

スズキ *Lateolabrax japonicus*

すずき* [御座, 和具] : 183 (伊勢, 浜島; 東京~高知), せいご* [御座, 越賀] : 184 (伊勢, 浜島; 秋田~高知)
備考: 小型のものを「せいご」, 大型のものを「すずき」と呼称する. 東海農政局津統計・情報センター (2005) では和具地区の和具浦から「またか」が, 鍋島 (2008) では冬場の不味い個体を指す地方名として「ふゆざいもく」が採録されている.

イシナギ科 *Polyprionidae*

オオクチイシナギ *Stereolepis doederleini*

おおのます [和具]
備考: 愛知県蒲郡市西浦漁港でも同名が使用されている. 和歌山県和深で「おおな (おほな)」(宇井, 1929) が採録されている. 鍋島 (2008) では「あら」, 「あらます」が採録されている.

ホタルジャコ科 *Acropomatidae*

アカムツ *Doederleinia berycoides*

あかむつ* [越賀, 和具] : 15 (新潟, 東京, 山口)
備考: 志摩地域では従来水揚げがなかったが, 近年

では深海漁場の開拓に伴って少数が水揚げされている。鍋島（2008）では「あかむつ」のほか「ちむつ」が採録されている。

ハタ科 *Serranidae*

クエ *Epinephelus bruneus*

くえ* [和具], くえます* [御座, 和具]

アズマハナダイ *Plectranthias kelloggi azumanus*

きんぎょ [和具]

マハタ *Epinephelus septemfasciatus*

はたじろ [御座, 和具], はたじろます* [越賀, 和具] : 332 (鳥羽), はたます* [和具] : 332 (二本島; 愛知), ます* [和具] : 332 (鳥羽, 二本島; 紀伊半島~愛媛)

備考: 「はたじろます」や「ます」はいずれも江戸時代にはすでに存在した呼称である (博望子・原田 訳, 1988)。東海農政局津統計・情報センター (2005) では和具地区から「おきます」が採録されている。

アカイサキ *Caprodon schlegelii*

おたま [越賀], かわさき [和具]

備考: クロホシフエダイやヨコスジフエダイも「かわさき」と呼称されるが, いずれかが話者の誤同定である可能性がある。鍋島 (2008) では「おたま」の指す種としてアカイサキのほかにアカタマガシラ (タマガシラの誤認) を挙げている。

アカハタ *Epinephelus fasciatus*

きょうもどり [御座], ひょうぞう [和具]

備考: 尾鷲市では「あかごろ」, 南伊勢町では「あかます」と呼ばれ商品価値が高いが, 御座, 越賀, 和具地区では「ます」より劣るものとされ, 価格も安い。鍋島 (2008) では「ひょおぞお」のほか「あかます」も採録されている。鍋島 (2008) は「あかます」をアカハタとともにキジハタを指すとしている。東海農政局津統計・情報センター (2005) でも和具地区から「あかます」がキジハタの地方名として採録されている。

ノミノクチ *Epinephelus trimaculatus*

あずきます [越賀, 和具]

備考: 形態的に酷似するキジハタとは現在では区別されていない。

アオハタ *Epinephelus awoara*

ます* [和具] : 4 (高知)

キジハタ *Epinephelus akaara*

あずきます* [和具], ぶんど [越賀, 和具]

ホウキハタ *Epinephelus morrhu*

かっぱ [御座], かっぱます* [御座, 和具]

備考: 形態的に類似するイヤゴハタとは区別されていない。東海農政局津統計・情報センター (2005) では和具地区からも「かっぱ」が採録されている。

イヤゴハタ *Epinephelus poecilnotus*

かっぱます [御座, 和具]

オオモンハタ *Epinephelus areolatus*

ぶんどうます [越賀, 和具]

備考: 本来は「あずきます」はキジハタおよびノミノクチ, 「ぶんどうます」はオオモンハタを指し, 前者の方が高級とされる (西岡幸彦氏, 私信) が, 現在では混同されているものと推測される。鍋島 (2008) ではホウセキハタを指す地方名として「あずきます」が採録されているが, 本種はこれまでに志摩地域を含む三重県内からは記録がなく, オオモンハタの誤認と考えられる。東海農政局津統計・情報センター (2005) ではホウセキハタの地方名として和具地区から「ぶんどます」を採録しているが, 掲載されている写真はオオモンハタの誤同定である。

サクラダイ *Sacura margaritacea*

きんぎょ [和具] : 154 (静岡)

キントキダイ科 *Priacanthidae*

ホウセキキントキ *Priacanthus hamrur*

きんとき* [御座, 和具] : 308 (和歌山), きんめだい [和具]

備考: 鍋島 (2008) では「おじ」が採録されている。

チカメキントキ *Cookeolus japonicus*

きんとき* [和具] : 210 (鳥羽; 和歌山), きんめだい [和具]

備考: 志摩市波切地区では「かねひら」と呼称する。

キビレキントキ *Priacanthus zaiserae*

きんとき [和具], きんめだい [和具]

キントキダイ *Priacanthus macracanthus*

きんとき* [和具] : 118 (鳥羽; 和歌山), きんめだい [和具] : 118 (神奈川)

備考: 東海農政局津統計・情報センター (2005) では和具地区から「かねひら」が, 鍋島 (2008) では「かげひら」が採録されている。鍋島 (2008) では「きんとき」はクルマダイの地方名として採録されているが, 併記されている話者の会話内容に含まれ

る特徴からキントキダイまたはキントキダイ科の種と考えられる。

ミナミキントキ *Priacanthus sagittarius*

きんとき [和具], きんめだい [和具]

テンジクダイ科 Apogonidae

ネンブツダイ *Ostorhinchus semilineatus*

あかたん [御座], きんぎょ [和具], わたぼ [御座]

備考: 尾鷲市では同様にテンジクダイ科とキンメモドキを混同して「あたぼ」と呼称する。「わたぼ」は鍋島 (2008) でも採録されている。

テンジクダイ *Jaydia lineata*

わたぼ [御座]

備考: 鍋島 (2008) では「わたぶ」が採録されている。

クロホシイシモチ *Ostorhinchus notatus*

きんぎょ [和具], わたぼ [御座]

キンセンイシモチ *Ostorhinchus properuptus*

わたぼ [御座]

コスジイシモチ *Ostorhinchus endekataenia*

わたぼ [御座]

スカシテンジクダイ *Rhabdamia gracilis*

わたぼ [御座]

アマダイ科 Branchiostegidae

アカアマダイ *Branchiostegus japonicus*

あまだい* [越賀, 和具] : 6 (一般)

備考: 「あまだい」は鍋島 (2008) ではアマダイ科全般を指す混称とされる。

ムツ科 Scombridae

ムツ *Scombrops boops*

むつ* [御座, 越賀, 和具] : 346 (一般)

スギ科 Rachycentridae

スギ *Rachycentron canadum*

すぎ [御座] : 181 (神奈川)

シイラ科 Coryphaenidae

シイラ *Coryphaena hippurus*

しいら* [御座, 和具] : 164 (東京その他多くの地方)

備考: 東海農政局津統計・情報センター (2005) では御座地区から「とーひやく」, 和具地区から「とーやく」が, 鍋島 (2008) では「かま」, 「とおやく」が採録されている。

アジ科 Carangidae

ブリ *Seriola quinqueradiata*

あぶご [和具] : 301 (伊勢浜島; 静岡), いなだ* [御座, 和具] : 301 (志摩浜島; 一般), けんかぶり [御座, 越賀], ぶり* [御座, 越賀, 和具] : 392 (志摩浜島; 一般), もじゃこ* [御座, 和具] : 302 (紀州, 高知), わらさ* [和具] : 302 (三重; 秋田, 関東~東海)

備考: 典型的な出世魚で, 大きくなる順に, 「もじゃこ」(当歳幼魚), 「あぶご」(全長30cm程度まで), 「いなだ」, 「わらさ」, 「ぶり」となる。「けんかぶり」は6キロから7キロ程度のブリを指す。ブリの地方名については追加調査の余地が大きい。鍋島 (2008) では「あぶご」, 「いなだ」, 「ぶり」, 「もじゃこ」のほか, 「おおいお」と「わかなご」(ブリの小さいもの) が採録されている。

ヒラマサ *Seriola lalandi*

ひらまさ* [和具] : 289 (東京, 神奈川, 高知), まさぎ* [和具] : 289 (熊野)

備考: 東海農政局津統計・情報センター (2005) では和具地区から「ひら」が, 鍋島 (2008) では「ひら」, 「ひらぶり」が採録されている。

ヒレナガカンパチ *Seriola rivoliana*

おばかんぱち [和具], おばしお [和具]

備考: 「おば」は“野生の”, あるいは, “妙な”という意味合いで用いられるとされるが (和具地区での聞き取り), 鍋島 (2008) では似て非なるものこととされる。

カンパチ *Seriola dumerili*

あかばな* [和具] : 103 (西日本各地), かんぱち* [和具] : 103 (新潟, 東京, 神奈川), しお* [御座, 和具] : 103 (鳥羽; 紀州各地, 大阪)

備考: 小型のものを「しお」, 中型のものを「かんぱち」, 10キロを超えるものを「あかばな」と呼称する。鍋島 (2008) では「しお」, 「しおご」が採録されている。

マアジ *Trachurus japonicus*

あじ* [御座, 越賀, 和具] : 320 (一般), おおあじ* [御座, 和具] : 320 (紀州, 兵庫, 島根), じんた [御座, 和具] : 320 (神奈川), じんたん [御座]

備考: 「じんた」, 「じんたん」は当歳の幼魚を指す。尾鷲市ではマアジの当歳幼魚を「もじゃこ」と呼称

する。鍋島（2008）では「あじ」、「おおあじ」のほか「あきあじ」、「おきあじ」が採録されている。

モロ *Decapterus macrosoma*

むろあじ〔御座, 和具〕：410（一般）

オアカムロ *Decapterus tabl*

あかむろ*〔和具〕：61（紀州, 高知）

マルアジ *Decapterus maruadsi*

あおあじ*〔御座, 和具〕：333（東京以西）, むろ

あじ*〔越賀, 和具〕：333（紀州）

備考：鍋島（2008）では「あおあじ」のほか「まるあじ」が採録されている。

クサヤモロ *Decapterus macarellus*

せなが〔和具〕, むろあじ*〔和具〕

備考：マルアジ, クサヤモロ, オアカムロはタカベ, サバ類と並んで塩辛（魚を丸のまま塩蔵熟成させたもの）の材料として重宝される。鍋島（2008）でムロアジの地方名として採録されている「みずむろ」は, 話者の会話内容から本種のことを指すと考えられる。

ムロアジ *Decapterus muroadsi*

きんむろ*〔和具〕：347（和歌山）, むろあじ*〔和具〕：348（一般）

備考：尾鷲市ではムロアジのうち, 特に発色がよく味のよいものを「あかぜ」と呼称する。鍋島（2008）では多様なムロアジの地方名が採録されており, 「あかむろ」, 「せなが」, 「ほんむろ」, 「むろ」, 「こじゃか」（ムロアジ類の小さいもの）がある。「せなが」については, 話者の会話内容からムロアジ類全般の混称と考えられる。

メアジ *Selar crumenophthalmus*

きんぱくあじ〔御座〕

備考：浜島では「かめあじ」, 「どんぱく」とも呼称される。尾鷲市では「きんぱこ」と呼称される。東海農政局津統計・情報センター（2005）では和具地区から「きんぱく」が採録されている。鍋島（2008）は「あおあじ」, 「まめあじ」を採録しているが, 何らかの誤認の可能性が高い。

イトヒキアジ *Alectis ciliaris*

いとひき*〔御座〕：39（神奈川, 紀州）

備考：鍋島（2008）では「いとはぎ」, 「いとひき」, 「いとまき」, 「いとまきだい」, 「いとより」が採録されている。

カスミアジ *Caranx melampygus*

かめあじ〔御座, 和具〕

備考：鍋島（2008）では「おぼ」, 「しまあじのおぼ」はカスミアジの地方名とされているが, 実際にはナンヨウカイワリを指す。

ギンガメアジ *Caranx sexfasciatus*

かめあじ〔御座, 和具〕

ロウニンアジ *Caranx ignobilis*

かめあじ〔御座, 和具〕

シマアジ *Pseudocaranx dentex*

しまあじ*〔御座, 和具〕：167（東京以西）

備考：鍋島（2008）では「しまあじ」のほか「しまじ」が採録されている。

カイワリ *Kaiwarinus equula*

ひらあじ*〔和具〕：79（鳥羽；一般）

備考：鍋島（2008）では「ひらあじ」はマアジの地方名として採録されている。

クロヒラアジ *Carangoides ferdau*

ひらあじ*〔和具〕

ナンヨウカイワリ *Carangoides orthogrammus*

おぼしまあじ〔和具〕, ひらあじ〔和具〕

リュウキュウヨロイアジ *Carangoides hedlandensis*

ひらあじ〔和具〕

マルヒラアジ *Carangoides coeruleopinnatus*

ひらあじ*〔和具〕

ヒイラギ科 *Leiognathidae*

ヒイラギ *Nuchequula nuchalis*

きら〔御座〕

備考：鍋島では「ぎいぎい」, 「ぎらぎら」が採録されている。

ヒメヒイラギ *Equulites elongatus*

きら〔御座〕, ぎら〔御座〕

オキヒイラギ *Equulites rivulatus*

きら〔御座〕, ぎら*〔御座, 和具〕：71（尾鷲, 二木島；紀州）

シマガツオ科 *Bramidae*

マルバラシマガツオ *Brama orcini*

えちおびあ*〔和具〕

備考：現在の志摩地域ではほとんど漁獲されないが, シマガツオやチカメエチオピアとの混称と推測される。鍋島（2008）ではヒレジロマンザイウオの地方名として「えちおびや」が採録されている。

ハチビキ科 Emmelichthyidae

ハチビキ *Erythrocles schlegelii*

ほて [越賀, 和具]

備考：志摩地域では非常に人気があり、カツオ、イサキと共にこねずしの材料として重宝される。南伊勢町では「あかぼら」と称され、魚価が低い（岡田 誠氏, 私信）。なお和歌山県ではハタ科のアラを「ほた」と称する。「ほた」とは櫓木に由来する呼称で、志摩地域の「ほて」も同じ語源である可能性が高い。

フエダイ科 Lutjanidae

クロホシフエダイ *Lutjanus russellii*

かわさき* [和具]

ヨコスジフエダイ *Lutjanus ophuysenii*

たるみ* [和具] : 422 (和歌山, 大阪)

フエダイ *Lutjanus stellatus*

たるみ* [和具]

ヒメダイ *Pristipomoides sieboldii*

ちびき* [和具] : 285 (和歌山, 広島, 北九州)

マツダイ科 Lobotidae

マツダイ *Lobotes surinamensis*

とびあがり [御座]

クロサギ科 Gerreidae

クロサギ *Gerres equulus*

ぐち* [和具]

備考：志摩町から南伊勢町まで「ぐち」が使われているが、尾鷲市では「どてむつ」と呼称される。

イサキ科 Haemulidae

イサキ *Parapristipoma trilineatum*

へーたいさん [和具], いさぎ* [御座, 越賀, 和具] : 29 (東京～福岡), いさき* [御座] : 29 (東京～島根, 沖縄)

備考：縦縞が明瞭な小型個体をその模様に因み「へーたいさん」と呼称する。東海農政局津統計・情報センター (2005) では和具地区から「うず」が、鍋島 (2008) では「いさぎ」のほか「うず」, 「うずむし」が採録されている。

コロダイ *Diagramma picta*

かいぐれ* [和具] : 150 (阿曾; 和歌山)

備考：鍋島 (2008) では「かいぐれ」のほか「かいぐれのおば」が採録されており、元来「かいぐれ」はコショウダイのみを指していた可能性がある。

コショウダイ *Plectorhinchus cinctus*

かいぐれ* [和具] : 143 (二木島; 和歌山)

備考：東海農政局津統計・情報センター (2005) では和具地区から「かいぐれ」が採録されており、こちらが元来の語形である可能性が高い。鍋島 (2008) では「たいぐれ」が採録されている。

イトヨリダイ科 Nemipteridae

イトヨリダイ *Nemipterus verus*

れんこ [和具]

タイ科 Sparidae

ヘダイ *Rhabdosargus sarba*

まなじ* [御座, 和具] : 304 (鳥羽; 和歌山)

備考：紀伊長島町や尾鷲市でも「まなじ」と呼称されているが、熊野市遊木ではクロサギのことを指す。

クロダイ *Acanthopagrus schlegelii*

くろだい* [御座, 和具] : 132 (各地), つえ (御座) : 133 (鳥羽)

備考：志摩市片田地区でも「つえ」と呼称される。東海農政局津統計・情報センター (2005) では和具地区の和具浦から「かいづ」, 「しら」, 「きびれ」といった複数の地方名を採録しているが、話者の写真からの種同定精度には疑問が残る。鍋島 (2008) では「つえ」のほか、クロダイの子として「かいづ」が採録されている。

キチヌ *Acanthopagrus latus*

きびれ* [和具] : 109 (大阪, 山口, 有明海)

マダイ *Pagrus major*

ざざ [御座], やき* [御座, 和具] : 326 (伊勢), たい* [御座, 越賀, 和具] : 326 (一般), まだい* [和具] : 326 (一般)

備考：御座地区では明確にサイズによって呼称が異なり, 「ざざ」(全長15cm程度まで), 「やき」(全長30cm程度まで: 塩焼きに丁度良い大きさであることに由来), 「たい」(全長30cm以上)となる。鍋島 (2008) ではマダイの老成魚として「かまだい」, 「せだい」が採録されている。

チダイ *Evynnis tumifrons*

さくらだい [御座], ちだい* [和具] : 211 (一般), れんこだい [御座]

キダイ *Dentex hypselosomus*

れんこ* [和具] : 108 (一般), れんこだい* [和具] : 108 (一般)

フエフキダイ科 *Lethrinidae*

メイチダイ *Gymnocranius griseus*

いち* [和具] : 349 (鳥羽; 和歌山), いちめ* [和具] : 349 (鳥羽), めいち* [御座, 和具] : 349 (鳥羽; 東京~山口), めいちだい* [和具] : 349 (東京~山口)

サザナミダイ *Gymnocranius grandoculis*

めいちもどき [和具]

ハマフエフキ *Lethrinus nebulosus*

くちび [和具]

フエフキダイ *Lethrinus haematopterus*

くちび* [和具] : 294 (和歌山, 高知, 熊本)
備考: 鳥羽市では「きつねいち」という地方名が採録されている (日本魚類学会, 1981). 鍋島 (2008) では「ふえ」が採録されている.

ニベ科 *Sciaenidae*

ニベ *Nibea mitsukurii*

いしもち* [和具] : 252 (二本島; 福島, 茨城, 和歌山)

オオニベ *Argyrosomus japonicus*

にべ* [御座, 和具]
備考: 鍋島 (2008) ではホンニベの地方名として「にべ」が採録されているが, ホンニベは国内では東シナ海にわずかに分布する種であり, 実際にはオオニベの誤認と考えられる.

シログチ *Pennahia argentata*

いしもち* [和具] : 177 (鳥羽, 志摩; 宮城~島根)
備考: 鍋島 (2008) ではヤライイシモチの地方名として「いしもち」が採録されているが, ヤライイシモチは熱帯性であり, 志摩海域には分布しない.

キス科 *Sillaginidae*

シロギス *Sillago japonica*

きす* [御座, 和具] : 176 (一般)

ヒメジ科 *Mullidae*

ヒメジ *Upeneus japonicus*

おじさん [御座]
備考: 鍋島 (2008) では「めんどり」が採録されている.

ホウライヒメジ *Parupeneus ciliatus*

おじさん [御座, 和具], おっさん [和具], きょうもと [和具], めんどり* [和具]
備考: 「きょうもと」の名は京都へ運び入れても不

味くて戻ってくること, あるいは戻ってきても“ピンピンのまま” (腐りにくい) であることに由来する. なお同様の地方名は他地域でも確認され [「きょうもどり」 (マハタ) など] (日本魚類学会, 1981), 御座地区ではアカハタに対し「きょうもと」と由来を同じくする「きょうもどり」の呼称が使用されている. 鍋島 (2008) ではヒメジの地方名として「こい」が採録されているが, 併記されている話者の会話内容からはホウライヒメジやオキナヒメジのことを指すと考えられる.

オキナヒメジ *Parupeneus spilurus*

おじさん [御座, 和具], きょうもと [和具], めんどり* [和具] : 70 (和歌山, 大阪, 高知)

ハタンボ科 *Pempheridae*

キンメモドキ *Parapriacanthus ransonneti*

わたぼ [御座]

ツマグロハタンボ *Pempheris japonica*

わたぼ [御座]

ミナミハタンボ *Pempheris schwenkii*

わたぼ [御座]

チョウチョウウオ科 *Chaetodontidae*

ハタタテダイ *Heniochus acuminatus*

ねったいぎょ [和具]

トゲチョウチョウウオ *Chaetodon auriga*

ねったいぎょ [和具]

チョウチョウウオ *Chaetodon auripes*

ちょうちょうお [和具], ねったいぎょ [(和具)]

ゲンロクダイ *Roa modesta*

ねったいぎょ [和具]

キンチャクダイ科 *Pomacanthidae*

キンチャクダイ *Chaetodontoplus septentrionalis*

ねったいぎょ [和具]

タカノハダイ科 *Cheilodactylidae*

タカノハダイ *Goniistius zonatus*

しょんべたれ [御座] : 201 (三重), しょーべんたれ [和具], たかのは* (御座, 和具) : 201 (志摩; 東京~熊本)

備考: 「しょんべたれ」, 「しょーべんたれ」は身が臭いことに由来する. 志摩市波切地区では尾鷲市などと同様「てつきり」と呼称される. 東海農政局津統計・情報センター (2005) では御座地区から「たか」が採録されている. 鍋島 (2008) では「たかの

は」のほか「てつきり」、「ひだりまき」、「みぎまき」がタカノハダイの地方名として採録されているが、これらが本当にタカノハダイのことを指しているのか慎重に判断する必要がある。本研究では和具地区の鮮魚店や和具漁港で同一話者がタカノハダイを「たかのは」、ミギマキを「ひだりまき」と区別することが確認されている。

ミギマキ *Goniistius zebra*

ひだりまき*〔和具〕：336（和歌山）

備考：東海農政局津統計・情報センター（2005）では御座地区からも「ひだりまき」が採録されている。

ウミタナゴ科 *Embiotocidae*

マタナゴ *Ditrema temminckii pacificum*

たなご*〔和具〕：55（鳥羽；一般）

シマイサキ *Rhynchopelates oxyrhynchus*

すみやき*〔御座〕：168（浜島；和歌山～大分）

備考：東海農政局津統計・情報センター（2005）では和具地区から「おばしま」、「すじいさぎ」が採録され、鍋島（2008）でも「すみやき」が採録されている。

タカベ科 *Scorpididae*

タカベ *Labracoglossa argiventris*

たかべ*〔御座、越賀、和具〕：202（一般）

備考：志摩市波切地区では体色に因み「じゅんさのまーく」と呼称される。尾鷲市では「べんた」と呼称される。

イシダイ科 *Oplegnathidae*

イシダイ *Oplegnathus fasciatus*

いらくさ〔和具〕、くろめ〔越賀、和具〕：32（鳥羽）、なべ*〔和具〕：33（鳥羽、尾鷲；鳥取）、なべわり*〔和具〕：33（尾鷲；新潟、静岡、愛知、和歌山）

備考：熊野市では「わさ」、老成個体を「ぎんわさ」とも呼称する。東海農政局津統計・情報センター（2005）では他に御座地区から「さんばそー」が、和具地区から「しまだい」、「ひし」、「やっこ」が採録されているが、少なくとも「ひし」については話者の写真からの種同定精度に疑問が残る。

イシガキダイ *Oplegnathus punctatus*

いしがきだい*〔御座、和具〕：31（神奈川）、なべしま〔越賀、和具〕

備考：尾鷲市では「とうもり」と呼称される。東海

農政局津統計・情報センター（2005）では御座地区から「あずきなべ」、「なべ」、「なるみ」、「はなぐろめ」、「ほしくろめ」が、和具地区から「あずきなべ」、「なべ」、「はなぐろめ」が、鍋島（2008）では「なべしま」のほか「くちじろ」が採録されている。

イスズミ科 *Kyphosidae*

イスズミ *Kyphosus vaigiensis*

どーまん〔御座、和具〕

備考：尾鷲市では「すもとり」または「すもーとり」と呼称される。

テンジクイサキ *Kyphosus cinerascens*

どーまん〔御座〕

備考：鍋島（2008）では「いすずみ」が採録されているが、本種のみを指すものか、あるいはイスズミ科全般を指すものかは不明である。

カゴカキダイ科 *Microcanthidae*

カゴカキダイ *Microcanthus strigatus*

かごかき*〔和具〕

メジナ科 *Girellidae*

メジナ *Girella punctata*

ぐれ*〔和具〕：352（和歌山、大阪、高知）、ひし〔御座、和具〕：352（鳥羽）、めじな*〔和具〕：352（新潟、東京、神奈川、静岡、佐賀）

備考：鍋島（2008）では「ぐれ」、「ひし」、「めじな」のほか、「なべうちやり」、「ひしび」が採録されている。

クロメジナ *Girella leonina*

おきびし〔和具〕、くろめ〔和具〕

イボダイ科 *Centrolophidae*

メダイ *Hyperoglyphe japonica*

だるま*〔和具〕：353（志摩；和歌山、高知）

イボダイ *Psenopsis anomala*

ぼせ*〔御座〕：44（尾鷲；紀州）

備考：志摩市波切地区では「いなもち」と呼称される。鍋島（2008）では「いぼだい」が採録されている。

ベラ科 *Labridae*

イラ *Choerodon azurio*

てす*〔御座、和具〕：45（鳥羽、二木島；和歌山、高知）

備考：志摩地域では下魚として扱われているが、御座地区ではおぼろ寿司の具に用いられる。鍋島

(2008) では「てす」がイラのほかにバラヒラベラの地方名として採録されているが、本種は南方種で志摩地域には分布しない。バラヒラベラの色はテンスに似るため、テンスの誤認の可能性が高い。

コブダイ *Semicossyphus reticulatus*

もぶし* [御座, 和具] : 147 (鳥羽, 志摩; 和歌山, 関西, 広島, 愛媛)

ホシササノハベラ *Pseudolabrus sieboldi*

あかべら* [和具] : 157 (神奈川, 愛知, 和歌山, 熊本)

備考: 東海農政局津統計・情報センター (2005) では和具地区の和具浦からアカササノハベラの地方名として「ばんじょう」を採録しているが、内湾の和具浦にはアカササノハベラは出現しないことから、ホシササノハベラの誤認と考えることが妥当である。

アカササノハベラ *Pseudolabrus eoethinus*

あかべら [和具]

キュウセン *Parajulis poecileptera*

あおべら* [御座] : 114 (神奈川, 愛知, 紀州, 石川, 兵庫, 熊本), べら* [御座, 和具] : 114 (一般)

備考: 御座地区では雌型を「べら」、雄型を「あおべら」と呼称する。東海農政局津統計・情報センター (2005) では和具地区の和具浦から「すじべら」が採録されている。

ブダイ科 **Scaridae**

ブダイ *Calotomus japonicus*

いがみ* [御座, 越賀, 和具] : 297 (鳥羽, 尾鷲; 愛知, 紀州, 大阪, 高知), いれこ [御座]

備考: 御座地区では小型のものを「いれこ」、大型のものを「いがみ」と呼称する。「いがみ」は江戸時代にはすでに存在した呼称である (博望子・原田 訳, 1988)。東海農政局津統計・情報センター (2005) では和具地区から本種の地方名として「てす」を採録しているが、これは話者が写真をイラまたはテンスと誤認したと考えることが妥当である。

ヒブダイ *Scarus ghobban*

あおぶだい [和具]

備考: 鍋島 (2008) ではアオブダイの地方名として「はっと」、「はと」が採録されている。「はっと」はイロブダイやセナスジベラの地方名でもあるとされているが (鍋島, 2008), 両種は南方種で志摩地域には分布しない。

アイナメ科 **Hexagrammidae**

クジメ *Hexagrammos agrammus*

あいなめ [和具] : 123 (鳥羽; 愛媛)

アイナメ *Hexagrammos otakii*

あいなめ [和具] : 2 (福島, 東京, 神奈川, 有明海)

カジカ科 **Cottidae**

アサヒアナハゼ *Pseudoblennius cottoides*

うまのちんぼう [御座]

アナハゼ *Pseudoblennius percoides*

うまのちんぼう [御座], もいお [御座]

ニシキギンボ科 **Pholidae**

ギンボ *Pholis nebulosa*

かみそりうなぎ* [御座] : 119 (熊野, 和歌山)

備考: 鍋島 (2008) では「かみすり」が採録されている。

イカナゴ科 **Ammodytidae**

イカナゴ *Ammodytes japonicus*

こうなご [和具] : 28 (北海道~愛媛)

ネズツボ科 **Callionymidae**

ネズミゴチ *Repomucenus curvicornis*

がっちょ [御座]

備考: 鍋島 (2008) ではヌメリゴチの地方名として「なめりごち」が採録されている。

マンジュウダイ科 **Ephippidae**

ツバメウオ *Platax teira*

つばめうお [御座]

アイゴ科 **Siganidae**

アイゴ *Siganus fuscescens*

あい* [御座] : 1 (鳥羽; 愛知, 紀州, 関西, 淡路島, 宇和島), あいご* [和具] : 1 (東京, 神奈川, 兵庫), ばり [和具] : 1 (静岡, 広島, 山口, 福岡)
備考: 鍋島 (2008) では「あい」が採録されている。

ニザダイ科 **Acanthuridae**

ニザダイ *Prionurus scalprum*

いらくさ [和具], おさん [和具], くさはぎ [和具], さんじるし* [御座, 越賀, 和具] : 246 (尾鷲)

備考: 和具地区では大晦日に節分行事を行う風習がある (山川, 2016)。この際小型のニザダイを真二つにして割り箸に刺し、火で炙ったのちに玄関に魔除けとして供えることから、小型のニザダイのみを「いらくさ」と呼称する。年末にはこの「いらくさ

(またはあらくさ)」が鮮魚店で販売されるが、入手が難しい場合にはカワハギやイシダイの小型個体などの磯魚が代用とされる。

カマス科 *Sphyraenidae*

オニカマス *Sphyraena barracuda*

おにがます [和具]

ヤマトカマス *Sphyraena japonica*

かます [御座, 越賀, 和具] : 415 (鳥羽; 一般)

備考: 南伊勢町から尾鷲市では「みずがます」(肉が水っぽいことに因る)と呼称される。

アカカマス *Sphyraena pinguis*

あらはだ* [御座, 越賀, 和具] : 8 (二木島; 和歌山)

備考: 鍋島 (2008) では「あかかます」がオオメカマスの地方名として採録されているが、オオメカマスは南方種で志摩地域には分布しない。

タイワンカマス *Sphyraena obtusata*

おにがます [御座, 和具]

クロタチカマス科 *Gempylidae*

クロシビカマス *Promethichthys prometheus*

よろり* [越賀, 和具] : 131 (和歌山)

タチウオ科 *Trichiuridae*

タチウオ *Trichiurus japonicus*

たちうお* [御座, 越賀, 和具] : 203 (千葉~九州)

備考: 東海農政局津統計・情報センター (2005) では和具地区から「たち」が、鍋島 (2008) では「たち」が採録されている。

サバ科 *Scombridae*

マルソウダ *Auxis rochei rochei*

すばた* [御座, 越賀, 和具] : 334 (和歌山, 鹿児島)

備考: 隣接する志摩市片田地区では「ろーそく」と呼称される。東海農政局津統計・情報センター (2005) では和具地区からも「ろーそく」が採録されている。

ヒラソウダ *Auxis thazard thazard*

そま* [御座, 越賀, 和具] : 288 (二木島, 尾鷲, 鳥羽; 和歌山)

備考: 鍋島 (2008) では「そま」のほかに「すま」が採録されている。

スマ *Euthynnus affinis*

やいと* [和具] : 187 (鳥羽; 和歌山~佐賀)

備考: 尾鷲市では「やはら」とも呼称されるが、志摩地域では確認されなかった。

カツオ *Katsuwonus pelamis*

かつお* [御座, 越賀, 和具] : 88 (一般), かつお [和具]

備考: 年配者の間では「かつお」ではなく、「かつつお」と呼称される。鍋島 (2008) では「かと」とされ、ほかにも獲れる時期や体サイズ, 食味などの違いを反映した「あきがつお」, 「かつこ」, 「こがつお」, 「ごりがつお」, 「すじかつお」, 「はつがつお」, 「はながつお」が採録されている。

ハガツオ *Sarda orientalis*

がり [和具]

備考: 南伊勢町から尾鷲市では「きつね」または「きつねかつお」と呼称される。鍋島 (2008) では「がり」のほかに「けつね」が採録されている。

ゴマサバ *Scomber australasicus*

ごまさば* [御座, 和具] : 148 (神奈川~山口), さば* [御座, 越賀, 和具]

マサバ *Scomber japonicus*

ひらさば* [和具] : 325 (静岡~九州), さば* [御座, 越賀, 和具], まさば* [御座, 和具] : 325 (福島県~大阪)

備考: 鍋島 (2008) では上記のほかに「ほんさば」が採録されており, 小さなものを指す地方名として「なめりさば」が採録されている。

サワラ *Scomberomorus niphonius*

さごし* [御座, 和具] : 162 (和歌山~九州), さわら* [御座, 和具] : 162 (一般)

ビンナガ *Thunnus alalunga*

とんぼ* [越賀, 和具] : 293 (千葉以西)

備考: 三重県には「かんだ」, 「かんだろう」という呼称が存在した (日本魚類学会, 1981)。鍋島 (2008) では「かすしび」, 「しび」, 「とんぼしび」が採録されている。

クロマグロ *Thunnus orientalis*

ぎち [和具], ほんまぐろ* [御座, 和具] : 136 (東京), まぐろ* [御座, 和具] : 136 (一般), よこわ* [御座, 和具] : 136 (二木島; 静岡~佐賀)
備考: 1キロ未満の当歳魚を「ぎち」, 1~5キロ程度のものを「よこわ」と呼称する。

キハダ *Thunnus albacares*

きはだ*〔和具〕：111（和歌山），きめじ*〔和具〕：111（関東）

備考：三重県には「いとしび」という呼称が存在した（日本魚類学会，1981）が，志摩地域を含む熊野灘地域では現在は確認されない．鍋島（2008）では「きはだ」，「きめじ」のほかに「きわだ」が採録されている．

メバチ *Thunnus obesus*

だるま*〔和具〕：407（静岡～和歌山）

備考：鍋島（2008）では「だるましび」，「ばち」が，東海農政局津統計・情報センター（2005）では同じく和具地区から「ばち」が採録されている．

ヒラメ科 *Paralichthyidae*

ヒラメ *Paralichthys olivaceus*

ひらめ*〔御座，越賀，和具〕：290（一般）

備考：三重県には「はすがれ」，「おおばす」といった呼称が存在した（日本魚類学会，1981）が，現在では確認されない．

カレイ科 *Pleuronectidae*

メイタガレイ *Pleuronichthys cornutus*

かれい〔和具〕：348（青森，佐賀），ばんだ〔御座〕，めいた*〔和具〕：349（東京，神奈川，静岡，紀州，山口，佐賀）

備考：東海農政局津統計・情報センター（2005）では和具地区から「ばんご」が，また鍋島（2008）ではカレイ類の小さいものまたはメイタガレイを指す地方名として「ばんご」が採録されている．

ムシガレイ *Eopsetta grigorjewi*

かれい〔和具〕

イシガレイ *Kareius bicoloratus*

かれい〔和具〕：32（東京）

備考：東海農政局津統計・情報センター（2005）では和具地区の和具浦から「もがれ」が，和具地区から「もがれい」が採録されている．

マコガレイ *Pleuronectes yokohamae*

かれい〔御座，和具〕，もがれい〔和具〕：324（新潟，静岡，愛知）

ササウシノシタ科 *Soleidae*

シマウシノシタ *Zebrias zebrinus*

したびらめ〔御座〕：169（富山）

クロウシノシタ *Paraplagusia japonica*

したびらめ〔御座〕：128（福島，東京，神奈川）

カワハギ科 *Monacanthidae*

ウマヅラハギ *Thamnaconus modestus*

うまづら*〔和具〕：54（二木島；秋田～大阪）

備考：鍋島（2008）では「うまづらはぎ」が採録されている．

カワハギ *Stephanolepis cirrhifer*

かわはぎ*〔御座〕：97（東京～関西），はぎ*〔御座，和具〕：98（鳥羽，志摩；富山，香川，宮崎），びく〔和具〕，ほんはぎ*〔和具〕

ハコフグ科 *Ostraciidae*

コンゴウフグ *Lactoria cornuta*

はこふぐ〔和具〕：151（長崎）

備考：鍋島（2008）では「こんごふぐ」という地方名が採録されているが，本種のことを指すものか，あるいはハコフグ科全般を指すものか判断できなかった．

ウミスズメ *Lactoria diaphana*

はこふぐ〔和具〕

ハコフグ *Ostracion immaculatum*

はこふぐ*〔御座，和具〕：264（新潟，東京，神奈，高知，山口）

フグ科 *Tetraodontidae*

ヒガンフグ *Takifugu pardalis*

よりと〔御座，和具〕

備考：志摩地域では最も美味とされる．鍋島（2008）では「よりと」，「よりとふぐ」をカナフグまたはマフグの地方名として採録されているが，これは誤認と考えられる．両種はともに志摩地域には極めて稀にしか出現しない．東海農政局津統計・情報センター（2005）では和具地区の和具浦から「もふぐ」が採録されている．

アカメフグ *Takifugu chrysops*

あかふぐ*〔和具〕：15（御座）

ショウサイフグ *Takifugu snyderi*

しょうさい〔御座，和具〕，なごや〔和具〕

備考：鍋島（2008）では「さばふぐ」，「さんさいふぐ」，「しょおさい」が本種の地方名として採録されているが，「さばふぐ」はクロサバフグまたはシロサバフグの誤認と考えられる．東海農政局津統計・情報センター（2005）では和具地区から「こもんふぐ」が採録されている．

コモンフグ *Takifugu poecilonotus*

しょうさい [御座, 和具]

トラフグ *Takifugu rubripes*

とらふぐ* [御座, 越賀, 和具] : 236 (東京～有明海)

クロサバフグ *Lagocephalus cheesemanii*

さばふぐ* [御座] : 159 (富山, 和歌山～長崎)

備考: 東海農政局津統計・情報センター (2005) では和具地区の和具浦から「さば」が採録されている.

シロサバフグ *Lagocephalus spadiceus*

さばふぐ* [御座] : 159 (富山, 和歌山～長崎)

備考: 鍋島 (2008) ではシロサバフグの地方名として「こがねそ」が, サバフグの地方名として「きんふぐ」「こがねふぐ」が採録されている.

ハリセンボン科 **Diodontidae**

ハリセンボン *Diodon holocanthus*

はりふぐ* [御座, 和具] : 276 (鳥羽; 茨城, 和歌山)

マンボウ科 **Molidae**

ヤリマンボウ *Masturus lanceolatus*

えびすまんぼう* [和具]

マンボウ *Mola mola*

まんぼ [和具], まんぼう* [御座, 和具] : 335 (一般)